

漁獲・資源管理および増殖事業の概要(平成13年11月～平成14年8月)

早期えり漁は、11月21日から開始され、滋賀県漁業協同組合連合会が自主規制として設定した漁獲枠の約40トンに11月29日に達し終了した。さらに、12月のえり漁でも同様に約17トンの漁獲枠を設定し、12月20日から12月25日まで操業された後、一旦自主規制に入り、2月から再度操業が開始された。滋賀県漁業調整規則(以後、規則という。)上、2月に可能となるアユ沖曳網漁業は、2月1日から2月7日まで操業され、漁獲量は約1.6トンであった。また、特別採捕許可によりアユ沖すくい網漁業は6月1日から開始され(規則により、本来は6月10日から開始)、えり・小糸網(刺網)・やなの操業は8月20日まで延長された(規則により、本来は8月10日に終了)。

漁獲については、えりは11月から好調であった。やなは3月から非常に好調であったが、6月以降には河川の濁水によりアユはほとんど漁獲されなかった。やな漁獲アユは3月から8月まで期間を通じて小型であった。アユ沖すくい網による漁獲アユは漁期前半は特に小型であったものの、漁獲は好調であった。

アユの資源管理としては、漁業規制措置として規則によるアユの採捕禁止期間(8月11日～11月20日)の設定がされている。また、増殖事業として、平成14年8月30日から10月16日に、親魚を安曇川人工河川に17,000kg(うち姉川人工河川天然遡上群2,500kg、志賀町漁協自主放流養成アユ親魚500kg)、姉川人工河川に天然遡上群3,000kgの計20,000kgを放流し、約24億尾のふ化仔魚の流下が見込まれた。

コアユ資源予測調査方法

1. 湖中アユ魚群分布調査

- 1) 調査日:平成14年1月から8月
- 2) 調査水域:琵琶湖北湖(図1)
- 3) 方法:水試調査船に装備している50KHz魚群探知機(JRC製JFV-200)で水深6～50m層を船速8ノットで調査した。魚群探知機の記録映像は、記録機(JRC製NJW-96)の記録紙上で小群(航行方向1mm×深度方向7mm)、中群(同2mm×同14mm)、大群(同3mm×同21mm)に分け、小群値への換算は中群=4×小群、大群=9×小群とした。

2. 産卵状況調査

- 1) 調査日:第1次調査 平成14年8月26,27日
第2次調査 平成14年9月9,10日
第3次調査 平成14年9月24,25,26日
第4次調査 平成14年10月7,8,9,10日
第5次調査 平成14年10月21,22,23日
第6次調査 平成14年11月5,6日
- 2) 調査河川:安曇川南流・北流、石田川、知内川、塩津大川、姉川、天野川、芹川、犬上川、愛知川、野洲川、和途川 (図2)